

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	浅野恭子	学校名	東京都立 町田総合高等学校
担当教科等	英語	対象学年（人数）	学校設定選択科目 英語総合読解 β・実用英語 21人
実践年月日もしくは期間（時数）	25年 9月 ～ 11月（9時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域： 英語・国際理解		
2. 単元名と単元目標		
単元名： Chocolate and Child Labor		
単元目標：児童労働の現状や問題について概要について把握するとともに、NGO や ODA の働きについて知り、社会や困りごとのある人に何か自分ができることがあるのかを考えることができる		
3. 単元の評価基準	1 知識・技能	・児童労働と、それに関わる NGO の取り組みについて英文を読み取ることができる。 ・異文化の人々の困りごとについて英文から情報を読み取ることができる。 ・NGO、NPO、ODA について理解することができる。
	2 思考・判断・表現	・児童労働の背景や問題点について考え、他者と話し合うことができる。 ・自分の価値観と照らし合わせて異なる文化の人々とどのように共生していけばよいか考え、他者と話しあうことができる。 ・NGO、NPO、ODA に関わる方の生き方を学び、自分なりにできることを考えることができる。
	③主体的に学習に取り組む態度	・児童労働や NGO、NPO、ODA の取り組みについて理解を深めるために、概要や要点を把握しようとしている。 ・答えのない問いに対し、自分の意見を持つことができる。 ・ペアワークやグループワークに主体的に参加することができる。
4. 単元設定理由／単元意義	【単元設定の理由】 世界の児童労働の現状やその背景、問題点について学ぶことで、子どもの権利や社会的な課題に対する生徒の関心を高めたい。また、グローバルな視点で活動している NGO, ODA や地域貢献をしている NPO について学び、社会問題への関心を高めるとともに、生徒が自分なりにできることについて考え、取り組んでいこうとする態度を養うことを目指したい。 【単元の意義】 1. 世界の児童労働の実態理解 2. 子どもの権利や人権の重要性の理解 3. 国際理解とグローバルな視点の育成 4. 倫理的・社会的問題への関心喚起 5. 主体的な行動の促進 【児童／生徒観】 多くの生徒は進路を意識しながら授業に取り組んでいるが、学習意欲の持続や基礎的な知識・技能の定着には課題が見られる。決められた答えを求める傾向がやや強い。	

	【指導観】 今回の単元では答えのない問いに対し、生徒が自分なりに考えることや他者との関わりを通じて視野を広げさせることを大切にしたい。そのため、適宜ペアワークやグループワークを取り入れ学びあいを促したい。			
5. 単元計画（全 9 時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	カカオと児童労働	身近なものが、外国や児童労働に関係していることを知る	・チョコレートへの興味関心をもつ ・英文を読み、本文の内容を理解する（part 1） ・Child labor と Child work の違いについて理解する ・「路上で物を販売する児童労働者から物を購入するか」を考える	児童労働写真・人数 学校へ行く児童の写真 「小学生からわかる！児童労働ってなに？」 (YouTube ACE) バングラデシュ写真
2	児童労働の内容と背景	児童労働の内容と背景について考える 貧しさからくる「負の連鎖」について知る	・英文を読み、本文の内容を理解する。(part 2) ・「児童労働のシステムは誰がいけないのか」を考える ・文字が読めないことの体験 ・「負の連鎖」を考える ・「どうやったら「負の連鎖」を断ち切れるのか」を考える	ベンガル語練習帳 負の連鎖（JICA）
3	NGO 現地で活動	NGO ACE がガーナで行うスマイルガーナプロジェクトを知る。	・ガーナの課題を読む（ジグソー法） ・谷川俊太郎「そのこ」を視聴する ・「Should we stop buying chocolate to end child labor on cacao farms?」について考える ・英文を読み、本文の内容を理解する。(part 3) ・「スマイルガーナプロジェクトが様々なアプローチをする理由」を考える	谷川俊太郎「そのこ」 (YouTube Ace)
4	NGO 日本で活動	NGO ACE が日本で 行う活動を知る フェアトレードについて知る	・英文を読み、本文の内容を理解する。(part 4) ・日本のチョコレート会社の児童労働への取り組みについての英文を読む ・フェアトレードについて知る	「チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか？」
5 6	貿易 ゲーム	自由貿易やグローバル化が引き起こす問題に気づく	・貿易ゲーム ・振り返り ・ディスカッション	新・貿易ゲーム

7	社会・地域貢献 / NGO・NPO・ODA	地域貢献、社会貢献をしている人や団体の思いを知る 自分たちの住む町田について考える	・ NGO・NPO・ODAの違いについて知る ・ 世界／地域で活動している人の話を聞き、社会貢献活動について考える ・ 2035 年に“推せる町”（住民の満足度／移住希望者の心をつかむ視点）になるために町田の良いところ、問題点について考える	東京都町田市「第 8 回高校生と町田市議会議員の意見交換会」 テーマ①「町田をもっと“推せる街”にするには？」 テーマ②「10 年後の町田について考える。」
8	共生	日本に暮らす外国人の困りごとを知る 自分がどのように異文化出身の人々と関わっていくかを考える	・ 町田に住む外国人人口の数や国名について知る ・ 日本に住む外国人が困っていることについて知る（ジグソー法） ・ ALT（Frank）が日本で経験した嫌だった体験を聞く ・ 無自覚の偏見について考える ・ 「勤務中の礼拝」への対応をどうするのか、話し合いをする。	https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/toukei/setai/machisetajin/setaitojinnkou_2024.files/setaitojinkou202407.pdf 町田市国籍別人口 「人間と社会」（東京都教育委員会）
9	生きがい	生きがいについて自分なりに考える	・ 「生きがいチャート」について知る ・ Love/ good at / World needs / What you can do every day について各自記入し、シェアする。	
6. 本時の展開（ 7, 8 時間目） 本時のねらい： (7)社会・地域貢献をしている人の話を聞き、自分たちの住む町田について話し合う中で、地域にどのような課題があるかを見つめ直すとともに、何か自分にできることがあるかを考えることができる (8)異文化出身の方の視点から地域社会を見直し、自分の中にある無自覚の偏見を知るとともに、共生するとはどういうことかを自分なりに考えることができる				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態			指導上の留意点（支援）
導入 20 分 展開 7 5 分	・ 貿易ゲーム振り返り ・ Chocolate and Child labor 振り返り (YouTube) ・ 町田木曽南自治会長、NPO リトリトさん紹介 ・ What is an NGO/ NPO/ ODA? 英文読解 QA ・ 自治会長の話（地域貢献、社会貢献きっかけなど） 困りごとに気づく力、一緒に考える力 ・ 学校のある町田市の良いところ・課題について考える 東京都町田市「第 8 回高校生と町田市議会議員の意見交換会」 テーマ①「町田をもっと“推せる街”にするには？」			D グループの感想をシェアしつつ、A グループがそもそも不平等な状態に気づいていなかったことも伝える 「チョコっと世界をのぞいてみよう」(YouTube Ace) https://youtu.be/k-oA9k7-rJg 個人→4 人グループ ダイヤモンドランキング

まとめ 5分	テーマ②「10年後の町田について考える。」 ・町田に住む外国人人口について知る（人口の2%） ・日本に住む異文化出身の方が困っていることについて知る 英文読解 ジグソー法 ・ALT（Frank）の日本で経験したことを聞く ・困りごとの背景にある Unconscious bias について考える ・ケーススタディー 【勤務中のイスラム教の方の礼拝】 勤務中に礼拝の時間を10分取りたいと言われた際に、自分が社員とだったらどのように対応するか？（有給にするのか無給にするのか、従業員への説明など） ・共生（一緒に生きる）とはどういうことか？	「こんなことをやってくれる人が近所にいたらいいな」 で考えさせる 4～6グループに分かれ自分の担当するカードを理解する 正解はないので、皆が少しでも納得できるような職場環境をどう作るのか考えさせたい
7. 資料（教材） 「人間と社会」（東京都教育委員会）		
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 授業中の観察、ワークシート		
9. 学校外との連携 東京都立町田総合高校評議員／町田木曽南自治会長 一戸雅行さん NPO リトリトさん		
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） < 1. 2時間目より > バングラデシュの児童労働で果物を売っている子どもから品物を買うか？ ・安全かどうかかわからないし、一人から買ったなら皆からも買わないといけなくなりそうで怖い。 ・たまになら何個か買う。毎日はお金がかかるから買えないかもしれない。 感想 ・これからチョコを買おうと思ったときに悩んでしまうと思った。小さな子どもたちが学校にも行けずに労働をしているのに、そんな事を考えずに食べていいのだろうか。 ・世界で10人に1人の割合で児童労働をしていて、子供たちが働かざるを得ない状況にあることを知って、今の自分の当たり前暮らしをちゃんと大切に過ごしたい。 ・児童労働は体に悪い環境で危ない仕事をさせられていると考えたら、想像以上に現実はひどい。 ・日本のヤングケアラーは「負の連鎖」活動で行った児童労働をしている子どもたちと状況が似ているので、海外だけの問題ではないのかもしれない。 ・一度お金をもらい稼げることを知ったら、そこから学校へ行けることになっても行こうとは思えない。自分だったら年下と学習することに劣等感をもってしまう。 ・学校へ行き、読み書きができるようになったらいい仕事に就けるから留年しても学校へ行きたい。 < 3. 4時間目より > カカオ農園の児童労働に間接的に関係しているのでチョコレートを買うことを止めるべきなのか ・買うことをやめたらガーナの人や子どもの仕事がなくなりお金がもっと入らなくなる。 ・日本の会社の売上げが減り、ガーナ農家に支払われるお金もますます少なくなるだけ。 ・値上げしてもいいからガーナに行くお金が増えればいい。 ・買うことを止めても根本的な解決にはならない。 ・自分たちがチョコレートを買わなくなったところで、児童労働がなくなるわけではない。児童労働を止めたいのなら、政府や会社視点を変えるべき。 感想 ・いつも考えずに食べるチョコレートにここまでの問題があることを知らなかったのでびっくりした。この問題を知らない人がほとんどだと思うので、みんな知るべき。 ・ガーナに生まれるだけで、生まれた瞬間から貧困なのはかなりきつい。 ・自分たちが安くいい物を買っている裏では、海外で苦しんでいる人がいたことが想像以上でびっくりした。 ・チョコレートが好きなのでこれからはフェアトレードの商品を買ってチョコレートを楽しみたい。		

- ・児童労働の事実を知らないからこそ、日本のチョコレートのパッケージは裏ではなく表に「児童労働をやめる」取り組みをもっとアピールしてもいいと思う。小さくて今まで気がつかなかった。
 - ・今回はチョコレートについて学んだが、低賃金での労働により作られた製品は他にもたくさんあると知った。中でも自分に身近なのが服だと思った。服を安く買うことがよくあるが、考え直す必要があると思った。
 - ・ガーナの人々の労力も知らずにチョコを食べていたという事実を知り、やるせない気持ちになった。
- < 5. 6時間目 貿易ゲーム>感想 (A グループ道具／お金 有 ⇔ D グループ道具／お金 無)
- ・他のグループとの交渉が難しかった。道具が欲しいけど、他のグループは自分たちに有利な条件をだしてくるため、自分も相手のことも考えなければいけないことが大変だった。
 - ・世界って不平等。今回はゲームだったけど実際に D グループみたいな国があると実感した。
 - ・A グループとして利益を増やしつつ、援助するなど様々な役割がある中、グループ内の合意を得ることが難しかった。
 - ・価格変動などの変化に対応していくことに必死で、協力してくれたグループがいてとても助かった。
 - ・D グループは無力感がありモチベーションがあがらない。性格の悪さが貿易を制することがわかった。
 - ・お金がある A グループが貧しい D グループに協力してくれればイライラしなかった。
 - ・裕福な A グループは冷たくて何も貸してくれなかった。とても不公平で不平等だと感じた。同じポジションの D グループが協力してくれてありがたかった。二度とやりたくない。

< 7・8時間目より>

無意識の偏見について

- ・他の国に行ったときに、目を横にひっぱる動作をされたことがある。
- ・日本に暮らす外国人／JET が「電車で隣に日本人が座らない」「美容院へ行っても断られる」「(観光客だと思われ) いつ帰国するの?」と言われ傷ついていたことを知って驚いた。
- ・服装や装飾品など見かけで、初対面の人に「怖い人」と思われたことがある。
- ・国や見かけで判断するのではなく、個人を知ろうとすることが無意識の偏見を止めることができる。
- ・コミュニケーションをまずはとって、相手を「知る」ことを大切にしたい。

礼拝のケーススタディーについて

- ・礼拝は10分だし、初めて他国でアルバイトをして馴染むのにも時間がかかるし元気に働いてもらいたいから有給で礼拝の時間をあげたい。日本人にイスラム教の礼拝について共通理解をしてもらう必要がある。
- ・礼拝する時間に給料を発生させてしまうと、ズルをして真似をする日本人がでてくるのではないかな。
- ・日本とは違う習慣だとして礼拝を受け入れるべきだけど、他の従業員から公平じゃないと言われてしまうかもしれない。
- ・外国の人だけ優先順位を高くして礼拝の時間をあげることはできないので、平等に休憩時間を10分設けてあげるほうがいいのではないかな。
- ・宗教のことだから、止めることはできないけど、業務とは関係ないからお金を払うことはできない。イスラム教の方が忘れることなく、礼拝する時間がとれるよう時間を配慮したい。

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外 研修で 何を学 び、 どの部 分を見 る児童 生徒に 伝え ようと 思った か	今回の研修ではバングラデシュの人の温かさと、自然の美しさを心から学ぶことができた。また、パッションをもって仕事と社会貢献を両立しているカッコイイ大人にたくさん出会い直接お話を聞いたことから私自身の「生き方」を振り返る貴重な経験になった。 生徒一人ひとりが、自分と家族、友人だけの狭い視野でのみ生活していくのではなく、少しでも「人／世界とのつながり」を考え、様々な他者とも今後共生しながら生きていって欲しいと思い本単元を設定した。相手を「知ろう」という姿勢がないと、無知の偏見で人を傷つけてしまうことがある。人と対話し、違いを受け入れたり、相手を思いやる想像力を磨いたりしてほしい。 私自身もバングラデシュに行く前は政変交代がちょうど1年前に行われ、「怖い国」という無知の偏見をもっていた。「バングラデシュは怖い国ではありません。何もないけど、心がある国なんです」という現地校の先生のセリフが今でも忘れられない。自身が見たこと、体験したこともバングラデシュの一部であり、全てを知った気になって授業をするのではなく、生徒と一緒に「共生」とは何かを一緒に考える時間を創りたいと考えた。
12. 苦勞	バングラデシュ／ガーナを「かわいそうな国」と捉える偏見が助長しないよう、日本とのつながりに触れ、写真や体験談で良さを知ってもらうことを心掛けた。また、答えのない質問をし、生徒に「モヤモヤ」感を味わってもらい、思いや考えを「共有」する時間をとるなど授業スタイルも「教える」か

した点	ら「一緒に考える」時間になるようできるだけ目指した。
13. 改善点	「他の人の困りごと」を助けたい、「生きがい」をもって何かに取り組みたいという気持ちの醸成まではできなかった。高校3年生にとって「生きがい」のテーマが大きかった。「生きがい」については生きがいチャートの概論の英文理解と各自が「What makes you happy? / What are your skills? / What can help others? / What jobs can give you money?」を考えるだけになった。 また、町田市の良いところ、悪いところを考える活動では、「町の課題」という大きなくくりから抜け出せなかったのも、個人レベルの「困りごと」に焦点をあてて、それに対して自分に何かできることがあるのかを考えさせる活動にできればよかった。
14. 成果が 出た点	「知る」と「考える」活動を繰り返し行うことができた。全体で何か「行動にうつす」ことはできなかったが、各自が「様々な人と共生する」ことについて考えるきっかけにはなった。 社会科の先生と貿易ゲームと一緒に企画し、教科横断型の学習に取り組むことができたことが大きな収穫となった。英語の授業で学習した「ガーナとカカオ」「(タイの) Songkran 祭り」の話が、社会の先生やゲストの方からでて、教科が繋がる瞬間が何回かあったことが面白かった。今後も様々な教科の先生や外部講師の方との連携に取り組んでいきたい。
15. 自由 記述	ストリートチルドレンや市民権など自身が海外研修で一番衝撃を受けた体験については、授業でどのように落とし入れるか時間をかけて検討したが、今回は残念ながらできなかった。エクマツラの渡辺夫妻の紹介をするだけでなく、生徒が自分ごととしてストリートチルドレンや市民権について考えることができる授業をどのように行うかは、これからの教員生活での課題にしたい。今回の JICA 教師海外研修は私自身にとっても「生きがい」をもって教師として「人／世界が必要とする」仕事／活動ができていたのかを省みる機会になった。 ダッカ大学モハメッド・アラム教授の「バングラデシュ人日本語学習者のためのケース教材」(第9課：私の子供は給食の豚肉は食べられません)を使った授業を高校3年生全クラスで行い「宗教・アレルギー・好き嫌い」を配慮しメニューを決める活動も行った。(以下感想) ・多数決で物事を決めることが公平でいいと思っていたが少数の意見も配慮したい。 ・日本の学校にもいろいろなバックグラウンドの人がいるから日本基準で給食を作っているようなら時代遅れだと感じた。 ・少数派のために動くことには限界があるけど、何もしないのは話が違うので、行動したうえで出来るか出来ないか結論をだしたい。言い方や態度にもお互い気を付けていきたい。 ・学校にはいろいろな人がいるからこそ、対応にはとても神経を使う。私は将来栄養士になりたいから、できるだけみんなが食べることができるよう献立を考えたい。 ・アルバイトでイスラム教の方に「豚肉入っていますか?」と聞かれたときに、今までは「入っている／入っていない」しか答えていなかったが、豚肉の入っていない別の料理をお勧めしてみるなど、どんな人でも食事を楽しんでもらえるような行動をしたい。

参考資料・使用教科書： Comet English Communication III (数研出版)

「人間と社会」 (東京都教育委員会)

「子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート。」 (合同出版) 白木朋子

「わたし8歳、カカオ畑で働き続けて。」 (合同出版) 岩附由香、白木朋子、水寄僚子

「ぼくは12歳、路上で暮らしはじめたわけ。」 (合同出版) 国境なき子どもたち

「チョコレートを食べたことがないカカオ農園の子どもにきみはチョコレートをあげるか?」 (旬報社) 木下理仁

「バングラデシュ日本語学習者のための「ケース教材」」 (令和出版) モハメッド・アラム

「新・貿易ゲーム(改訂版)」 (開発教育協会)

日本ユニセフ協会「子どもと先生の広場」

